

抄録

安全な歯科医療提供のために

名古屋掖済会病院歯科口腔外科

部長 阿部厚

口腔外科手術に伴う偶発症・合併症には、主に治療計画に関連したものや、周囲組織損傷などの手術操作に起因する出血、感染、知覚異常などの局所的合併症と、薬剤アレルギーや基礎疾患の増悪など全身的合併症がある。手術侵襲による合併症の最善の解決策は、発生を未然に防ぐことであるが、どれだけ完全な治療方針と手術計画を立て、熟練者が手術を行ったとしても、合併症を完全に防ぐことはできない。このため合併症を生じた際には迅速で適切な対応など、さまざまな医療安全管理が要求される。しかし、限られた人員・医療資源の下で診療する場合、対応や管理にも限界があるのは周知の通りである。

今回は当科で経験した合併症の症例を通じて、口腔外科小手術に発症しやすい合併症とその対応について提示する。また全身管理面という点から、高齢患者への薬剤投与の問題点と手術部位感染や骨粗鬆症について紹介する。昨今、医事紛争は増加の一途をたどっている。これは医療行為を行うための必要な医療水準が確保されていないということが根本にある。市中病院の口腔外科という立場から、合併症発症時の連携についても提示し、日常の臨床現場での参考になれば幸いである。